

令和2年度学校自己評価システムシート (県立庄和高等学校)

目指す学校像	国際社会に目を向け、地域に貢献し、社会で活躍できる人材を育成する学校
--------	------------------------------------

重点目標	1 主体的な学びにより、学習習慣を根付かせ、基礎学力の確実な定着を図り、学力向上に取り組ませる。 2 組織的計画的なキャリア教育により、目標の実現に向け努力を継続させる力を身に付け、行きたい進路の実現に挑戦させる。 3 活力ある学校生活により、責任感、社会性、主体性、協調性を涵養し、心身の健やかな成長を図り、目標を達成する経験を積ませる。 4 効果的に地域・保護者と連携し、協働をすすめながら、各種教育活動に取り組む。
------	---

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	11名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	10名

学 校 自 己 評 価					年 度 評 価 (2 月 1 日 現 在)		
年 度 目 標					年 度 評 価 (2 月 1 日 現 在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	ALの授業やICT活用、知識構成型ジグソー法など授業改善に取り組んでいるが、目に見える生徒の学力向上には至っていない。授業中に授業内容を理解している生徒の割合は75%であり、残り25%は時間内に理解できていない。個に応じたきめ細やかな指導の充実が更に求められる。	①授業中に授業内容が理解できた生徒の割合を向上させる。 ②生徒の家庭学習時間を増加させる。	①ICTを更に活用した指導法の工夫改善に取り組む ①授業公開週間の実施など教員が切磋琢磨できる環境を整理して、教科指導力の一層の向上を図る。 ①学習内容指導表を更に生かして生徒の学習達成目標を明確に示し、生徒自らが進路に向けた学びの地図を描けるように指導する。 ②6月の3者面談以外にも必要に応じて適時生徒との個別面談を実施して生徒一人一人の学習到達度を把握し、個に応じた指導・支援を実施する。 ②朝学習の効果的な在り方についてさらに研究を深める。 ②週末課題を全校をあげて取り組み、生徒の学習習慣の定着を図る。	①ICTを活用した授業を70%以上の教員が実践したか。 ①授業公開週間を年2回実施し教員全員が授業公開、参観、相互評価を行えたか。 ①学習指導内容表を年度の授業開始時までにまとめ、生徒に提示できたか。 ①個別面談を適宜実施し、生徒の学習到達度を把握できたか。 ②朝学習が浸透し、個に対応した効果的な学習となっているか。 ②週末課題を生徒に課し、学習習慣が定着したか。	●生徒の授業理解度は、アンケートにより79.8%となり、昨年度より4.8ポイント向上してきた。また、家庭学習時間は横ばいであり、増加できなかった。 ①ICTを活用し授業を実施した教員は、71.4%であった。 ①授業公開週間は休校の影響で2学期の1回のみの実施であったが、教職員全員で参観、協議を行い、教員の教科指導力向上に繋がった。 ①学習指導内容表は年度授業開始前(6月)に生徒に提示し理解を促せた。 ②朝学習は全学年に浸透し、自主的な10分間の学習はできていたが、学力向上の明確な効果は表れていない。 ②週末課題は教科で課すことにしたが、家庭学習量の増加につなげていない。	A	【課題】 ○授業中に授業内容を理解できる生徒の割合は上がったが、まだ不十分である。 ○家庭学習時間0分の生徒が約6割おり、学習習慣の定着が大きな課題である。 【改善策】 ○授業内容の理解について ・質の高い「わかる授業」、ICTやデジタルコンテンツを活用した興味関心をもてる授業を学校をあげて展開する。 ・教科指導における教員研修を充実させる。 ○学習量の増加について ・生徒の学習に対するインセンティブを与えられる朝学習を導入する。 ・各教科で生徒に対して計画的、継続的に課題を与え、その評価を工夫する。
2	生徒の進路満足度は高いが更に高みに挑戦する意欲が薄い。「入れる」進路先から「入りたい」進路先へと生徒の進路決定において、生徒および教職員も更に高い意識を持つ必要がある。国際交流事業は大きな成果を上げてきているが真の意味での交流に言語能力が必須である。英語での生徒同士の交流の場を多く求めたい。	①生徒の進路選択に対する意識を改善する。 ②生徒の満足度の高い進路選択を達成する。	①1年次の早い時期から系統的進路指導を展開し、生徒の進路意識を高める。 ①生徒の英語力を底上げし、姉妹校である台湾やオーストラリアの学生と英語を使った交流ができる力を育み、身に付いた能力や興味関心を生徒の進路選択へも反映させる。 ②就職希望者への面接指導、進学希望者への進学補習、公務員志望者への対策講座等、個に応じた指導を早い時期から展開し進路決定率の維持向上を図る。 ②更に魅力ある就職先ならびに進学先の新たな開拓に努める。	①各学年で系統立てて進路指導を実践し、生徒の進路意識の醸成が図れたか。 ①姉妹校の学生と英語を使った交流ができる程度の英語力が身についたか。 ②進路決定率を96%以上にできたか。 ②生徒にとって魅力ある進路先を開拓できたか。	●生徒の進路意識の改善と満足度の高い進路選択は概ね達成できた。進路満足度は91%(昨年度88%)。特に就職希望者は全員第1志望の内定を得た。 ①1年のうちから表現トレーニング、職業を知る座談会、分野別説明会など、系統立てた指導で生徒の進路意識を高められた。 ①海外への修学旅行が中止となり、直接交流はできなかったが、英語によるビデオメッセージやメッセージカードの交換などの交流を行うことができた。 ②進路決定率は2/1現在94%であり年度末までには目標値を達成できる見込みである。 ②新型コロナウイルスの影響もあり、魅力ある進路先は新たに開拓できなかった。	B	【課題】 ○「行ける」進路先から、「行きたい」進路先へと意欲的に挑戦する生徒の育成が課題。 ○国際交流はイベント的な取組から、日常的な取組へと発展させる段階にきている。 【改善策】 ○進路選択について ・セーフティネットを用意した、きめ細やかで個に応じた進路指導を展開する。 ・魅力ある企業や推薦大学等枠を開拓する。 ・進学補習や朝学習、家庭学習課題の方策を見直し、生徒の基礎学力向上に繋げる。 ○国際交流について ・日頃の教育活動の中に交流を取り入れる等新しい交流の在り方について検討する。
3	主体性や協調性を発揮して活躍している生徒は生徒会や特定の部活動、ボランティア有志等に限定されている。多くの生徒が主体的に活躍できる仕組みが求められる。地域と連携した探究活動を展開しているが活動時間の確保が難しく、生徒に十分な時間を与えられていない。部活動では多くの生徒が直向きに取り組む、加入率も低くないというケースも見受けられる。	主体的、協動的に部活動や学校行事、ボランティア活動や探究活動に取り組む生徒の割合を向上させる。	・現在実施している多くの地域連携の取組や学校行事にさらに多くの生徒が企画運営できる機会を設ける。 ・各学年の担任が具体的なクラス目標を明示して日々働きかけ指導することで、生徒に責任感や社会性、主体性、協調性を育む。 ・生徒に長期休業期間や週末等を利用した調査など、探究活動を計画させる上で学習時間の確保に努める。 ・部活動の転部も可能であるが、時期によって受け入れが不可能な場合もある。無理がなく効果的な転部の在り方を検討し、部活動未加入生徒を減少させる。	・生徒が主体的に積極的に運営に関わる機会を設けられたか。 ・生徒が責任感を持って学校生活を送り、主体的、積極的に行事等に参加できたか。 ・学校での学習時間を確保するため、学校外での活動を生徒に計画させ実行できたか。 ・転部の在り方を検討することができたか。また、部活動未加入生徒が減少したか。	●コロナ禍の制限がある中でも行事は工夫することで概ね実施することができた。アンケートより96%の生徒が学校行事等に主体的に取り組むことができた。 ・予選会など生徒が企画運営できる機会は多少なりとも設けられた。また、SDGsの取組では地域連携を図ることができた。 ・クラス毎の目標設定やクラス新聞の発行などを通して、生徒に責任感、主体性、協調性を育むことができた。 ・コロナ禍で学校外での活動が制限され、学校外での活動時間を確保できなかった。 ・今年度は退部する生徒はほとんどいなかった。転部の在り方については検討を継続する。	B	【課題】 ○新型コロナウイルス感染防止と生徒の主体的な教育活動の両立が課題である。また、令和3年度より生徒数・教員数減となるため部活動の活性化も課題となる。 【改善策】 ○生徒の主体的な活動について ・感染防止策を徹底しながら、できる限り生徒が主体的に活躍できる場を提供していく。 ○部活動の更なる活性化について ・年度毎に「選択と集中」で学校資源を分配するなど、新たな活性化策を検討する。 ・転部の在り方について引き続き検討する。
4	保護者の本校への訪問機会が多いとは言えない。生徒経由での通知が保護者の元に届きにくいことも原因であり、周知を徹底してPTA活動の活性化につなげる必要がある。また、地域と連携した探究活動と全校での成果発表会は保護者に周知されておらず、保護者の学校訪問の機会を逸している。	①保護者の来校者数を増加させPTA活動を活性化させる。 ②地域との協働を更に充実させる。	①メールシステムと併用して「生徒用サイト」「保護者用サイト」を用意して対象を絞った情報を発信をする。また、1年間の学習成果の発表会である「総合的な探究の日」を地域や保護者にも公開する等の工夫で多くの保護者を学校に招き入れ活性化を図る。 ①PTA役員を増員し会合や行事への、役員・教職員の参加を促しながら自由に意見交換ができる雰囲気醸成する中で、やり甲斐の感じられる主体的なPTA活動を促進する。 ②春日部探究SDGsクラブ(春日部市、民間企業、学校等)や、かすかべ未来研究所等と連携した探究活動、春日部市国際交流協会や地元中学校と連携した国際交流事業、その他、地元ロータリークラブや庄和商工会等、さらなる地域連携で教育活動の充実に取り組む。	①対象を絞った情報発信ができたか。またホームページのアクセス件数が1日平均1,200件を超えたか。さらに、生徒の成果発表会を地域や保護者に公開できたか。 ①PTA行事の参加人数が増加したか。また、保護者や教職員にとって充実したPTA活動となったか。 ②地域と連携した活動とおして生徒の教育活動は充実したか。	●コロナ禍でのPTA活動の活性化は困難であった。しかし、地域との協働は制限の中でもある程度の成果を残せた。 ①活性化には至らなかったが、PTA会報誌の発行はこれまでの年1回から2回へと充実が図れた。また情報発信は電子メールやホームページを積極的に用いることでこれまで以上に充実できた。HPアクセス件数は1日平均1,300件であった。 ②「総合的な探究活動」の成果発表会では保護者の参加は控えていただいたものの、県議会議員や市議会議員、県教委職員等を招聘して実施することができた。 ②卒業生や地域の方々を講師としてお呼びして指導いただいた「職業を知る座談会」や新聞に掲載された美術部による地域ボランティアなど地域との協働に取り組めた。	A	【課題】 ○引き続き、コロナ禍のPTA活動を活性化させる工夫が課題である。 ○情報発信では情報の質の向上が課題である。 ○地域連携は十分に成果を上げているため、今後は連携の質の向上が課題である。 【改善策】 ○PTA活動の活性化について ・組織の構成員が進んで甲斐の感じられるPTA活動を促進する。 ・情報発信では行事の様子等を保護者や中学生にも見せられる写真や動画を多用するなど質の向上に取り組む。 ○地域との協働について ・教育的効果は継続させながら、地域の要望等も踏まえつつ、新たな連携・協働の在り方について検討を始める。

学校関係者評価	実施日 令和3年2月12日
学校関係者からの意見・要望・評価等	・授業では先生方がプロジェクトなどのICTを活用して、生徒たちにより分かりやすく伝えようという意識が伝わってきた。今後も引き続き、質の高い授業を目指していきたい。 ・ICTやデジタルコンテンツを用いた教育が増えると、解かる生徒と解らない生徒の差が広がる。この差を埋めるための模索をお願いしたい。 ・授業中、理解力に差のある生徒が混在し、先生方はそれに対応する力が必要ですので、相互に授業観察などを行うなど、指導力向上を図ってもらいたい。 ・家庭時間0時間は学校だけでなく、家庭にも責任がある。結果に関わらず、課題を与え続けることが必要だと思う。 ・休校のため勉強量がかなり少ないと感じた。学校は生徒の学力保障に努めていたがリモートでの授業が週に数回程度でできるようになっていたら、もっとよかった。 ・授業中の理解度が75%から79.8%に向上したことは大変素晴らしい事である。 ・ICTやデジタルコンテンツ教材の活用では、有効的な使い方を考えながら学校をあげて更に展開することを期待します。
・コロナ禍で、就職希望者の全員が第1志望に内定を得たことは、大変素晴らしい結果であった。 ・国際交流に関しては、積極的な庄和高校を評価できる。 ・進学指導については、指定校・総合型・一般に至るまで、各大学の入試制度を詳細に把握でき、他大学間における入試制度の活用方法を生徒にしっかりと指導できる教員の存在が大切である。この点を進路指導部や担任がしっかり押さえ、生徒の意欲、納得、挑戦等がみられると、進路意識や実績にも変化がみられると思う。 ・進路目標を定めるのは、入学時からの指導が大切である。学力の結果が出てしまっからの目標設定では、生徒たちのモチベーションは上がらないのでガイダンス機能は重要である。 ・進学も就職もどちらにも強い庄和高校になると魅力ある高校になるのではないかと。 ・コロナ禍でも県のガイドラインに沿いながら工夫して学校行事をやるという熱意と精神は素晴らしい。また、部活動も制限される中でセルフトレーニングを中心に指導してくれた。 ・教員数や生徒数減少期では「あれもこれもではなく、庄和高校としてこれは絶対外せない」の視点を持つことが大切で。 ・生徒の主体性の向上では、この評議員会の中にも大人と同程度の生徒を入れ、問題と課題の共有を図るべきではないか。 ・部活動ではボランティア部を設けて地域活動参加を促すのは如何か。勉強以外の行動を評価する時代になってきている。生徒たちが胸を張ってアピールできる武器を持たせてあげたい。 ・庄和高校はSDGsに関する取組も進められているので、この学びをとおした地域貢献活動を更に展開させて、生徒が主体的に活動できる機会を増やしてもらいたい。 ・PTA活動がなかなかできなかったが、こういう時こそ、次年度の活動や今後のあり方などを考える良い機会になった。 ・HPの充実が図れ、アクセス数が増え、たくさんの方が喜ばれたと思う。 ・庄和高校の特徴として、地域との連携は最重要項目だと思う。地域から見放されたとき学校は成り立たなくなる。中学生に対する学校説明会だけでは苦しくなるので、「保・幼・福、小学校、中学校、高校」を一括りとしてプロジェクトを立ち上げ、遠大な高校入学計画を作成してみるのはどうか。 ・探究活動の成果発表会で保護者の参観はできなかったが、コロナが沈静化した時は、保護者や地域の方にも参観してもらいたい。発表内容の何か一つでも地域と連携して具体的な取組に結び付けられれば、生徒のやる気にも繋がると感じている。 ・生徒たちでPR部隊を作って、近隣の中学校に Outreach のは如何か。生徒が学校自慢を行い、名を高め、自分たちも庄和高校に誇りを持つようになるのではないかとと思う。	